

## 平成 23 年度日本生物物理学会第 50 回定例総会報告

日時：平成 23 年 9 月 17 日 12:50

場所：兵庫県立大学書写キャンパス書写記念会館 1F

議長：年会実行委員長 小倉尚志

議長の小倉氏より、出席 114 名、委任状 113 名、合計 227 名で総会の成立が宣言された。

### 【1. 報告、承認事項】

#### 1-1. 平成22年度決算報告（高田）

平成 22 年度の収支決算が報告された。

#### 1-2. 監査結果報告（片岡）

監事の曾我部正博氏、若林克三氏による会計監査結果の報告があった。

#### 1-3. 50 周年記念事業報告（片岡）

平成 22 年 12 月 2 日に東京で行われた学会創立50周年記念事業について報告された

#### 1-4. 平成23年度中間決算報告（高田）

##### 1-4-① 一般会計

昨年度と同程度の水準で概ね順調に推移していることが報告された。

##### 1-4-② 特別会計

現段階では大きな変化なく推移していることが報告された。

#### 1-5. 平成 23 年度事業の中間報告、今後の計画

##### 1-5-①. BIOPHYSICS誌について

BIOPHYSICS誌について、投稿数が増加していることが報告された。また、BIOPHYSICSをトップジャーナルにするための活性化方策として、Experimental Protocol, Hypothesis and Perspective, Database and computer programsの新カテゴリーの増設、投稿サイトの J-stage2から J-stage 3への移行および投稿システムの Scholar Oneへの移行、BIOPHYSICS論文賞の創設、若手奨励賞の応募条件にBIOPHYSICS投稿歴を加えることが提案された。

BIOPHYSICS論文賞については、定まった成果であることに加え、波及効果も考慮に入れ、生物物理学への貢献を学会から授賞すること、選考委員会で選考を行うこと、賞の表彰を総会で行うことなどを記した規程案が提案された。

BIOPHYSICS賞創設と若手奨励賞応募条件へのBIOPHYSICS投稿歴付加について承認された。

##### 1-5-②. 男女共同参画・若手問題検討委員会活動について（由良）

男女共同参画学協会連絡会での活動報告として、第3回大規模アンケートが来年度予定されていること、女子中高生夏の学校で生物物理に関するポスター展示を行ったことなどが報告された。若手奨励賞選考報告および年会での男女共同参画シンポジウムの開催報告がされた。

#### 1-5-③. 一般啓蒙活動について（光岡）

毎年学会が物理チャレンジの協賛を行っていること、今年度筑波で開催された物理チャレンジ、今年度の物理オリンピックへ参加したこと報告がされた

#### 1-5-④. 国際化・国際交流について（永山）

IUPAB関連として、第17回IUPAB国際会議（北京開催）の参加登録状況が報告された。第18回IUPABが2014年8月にオーストラリアで開催されること、IUPAB機関誌への投稿を勧める発言があった。

ABA関連として、第7回ABAシンポジウム開催報告、ABA資金からの第17回IUPAB国際会議参加への若手および被災地支援の状況、第8回ABAシンポジウムの紹介がされた。

#### 1-5-⑤. 法人化について（片岡）

日本生物物理学会はこれまで任意団体であったが、任意団体のままでいることの不利が説明され、今後法人化を目指す方針が運営委員会にて決定されたことが報告された。また、一般社団法人を経て公益社団法人を目指すことになることや、法人化に向けた流れが示された。

審議の結果、日本生物物理学会が法人化を目指すという方針について承認された。

#### 1-6. 平成24・25年度役員選挙結果の報告（片岡）

9月16日に開催された新旧合同委員会で、副会長として石島秋彦氏、運営委員として神取秀樹氏、高田彰二氏、瀧ノ上正浩氏、出村誠氏、野地博行氏、政池知子氏、南野徹氏が選出されたことが報告された。

#### 1-7. 平成24・25年度会長所信表明（難波）

平成24・25年度会長の難波啓一氏より所信表明があった。また、法人化委員会の設置と片岡現会長の委員長承認について提案があり、承認された。

#### 1-8. 平成24年度予算案（高田）

平成24年度の予算案の説明と「財政健全化特別会計」設置の提案があった。

審議の結果、平成24年度予算案並びに「財政健全化特別会計」の設置が承認された。

#### 1-9. 平成24年度事業計画（片岡）

第50回日本生物物理学会年会在9月22日-24日に名古屋大学東山キャンパスにて本間道夫氏を年会実行委員長として開催予定であること、会員数増強キャンペーンの継続、出版事業や人材育成に引き続き努力すること、国際化・国際交流活動の継続と国際化に向

けた年会英語発表の継続、研究体制の強化、法人化への議論・検討を行う事業計画が説明された。

第51回年会は京都にて七田芳則氏を年会実行委員長として開催されることが報告された。